

内谷市長の

ゆるやかコラム

「人口減少社会における

地域づくり」



今年は、11月に入ってから季節外れに暖かな日がありましたが、少しずつ西山も白く染まり始め、冬の寒さを感じる季節になってきました。

今年1年を振り返りますと、市制施行70周年にふさわしい様々な事業を、市民の皆さんのご協力のもと盛大に開催することができました。希望ある未来に向けた取り組みとして各種事業を開催できたこと、皆さんとともにおいでできたことに改めて喜びと感謝を申し上げます。

さて、全国的に少子高齢化が進んでいます。長井市でも目に見える形で人口減少が進んでいます。1年間に生まれるこどもの数は、ここ10年は180人から150人程でしたが、コロナ禍を経て、昨年度は100人程までになり大変厳しい状況にあります。

そのような中長井市では、人口減少社会にあっても、各地区の小学校と子どもたちを中心とした地域コミュニティを大切にし、活性化させていき

いと考えています。さらに、お互いの多様性を認め合い困ったときは力を合わせて、みんなで幸せに暮らせる、ダイバーシティとインクルージョンを基軸とした地域づくりに取り組んでいます。市内6地区の各コミュニティセンターにおいては、行政と一体となった懸命な活動が行われており、市民一人ひとりがまちづくりに参画する輪が広がっています。中長期的な視点で捉えた時に、地域が活性化していく持続可能な地域づくりが行われていると実感しています。このような取り組みの先に、人口減少が緩やかになり、やがて減らなくな時がくると考えております。

これから年末に向かってますます寒さが厳しくなりますが、地域の希望ある未来に向けて、来年も力を合わせて頑張つてまいりましょう。寒暖の激しい日が続きます。お体を大切にしながら、今年1年誠にありがとうございました。